

アート&デザインによる地域貢献  
「坂出アートプロジェクト2020-2021」の企画・実施  
Contributing to the community through Art and Design  
Sakaide Art Project 2020-2021

藤山 哲朗 芸術工学部環境デザイン学科 教授  
戸矢崎 満雄 芸術工学部アート・クラフト学科 教授  
かわい ひろゆき 芸術工学部ビジュアルデザイン学科 教授  
中山 玲佳 芸術工学部アート・クラフト学科 助教  
尹 智博 芸術工学部芸術工学教育センター 助教

Tetsuro FUJIYAMA Department of Environmental Design, School of Arts and Design, Professor  
Mitsuo TOYAZAKI Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Professor  
Hiroyuki KAWAI Department of Visual Design, School of Arts and Design, Professor  
Reika NAKAYAMA Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Assistant professor  
Jibak YOON Center for Art and Design Education, School of Arts and Design, Assistant professor

#### 要旨

本研究は2013年度から継続して行っている「瀬戸内国際芸術祭」におけるアートプロジェクトの一環として実施された。芸術祭の目標は「海の復権」と称し、瀬戸内海の地域・文化の再評価・再生を目指したものである。その中で本研究メンバーは、香川県坂出市の島部を対象に活動を行ってきた。今回は、それをさらに坂出市街地に広げ、コミュニティの活性化を目的に、主として2つのプロジェクトを実施した。

#### ①「しんきんぐ of ART」

この展覧会は、坂出市街地サンロード商店街内の高松信用金庫旧坂出支店を会場に行われた。元銀行という特徴ある会場を活かし、本研究メンバーと地元の坂出・高松のアーティストとの共同展示が特徴である。

#### ②「SDGs プロジェクト」

香川県立坂出商業高校と共同した教育的プログラムである。これは将来的にはSDGsを意識した商活動で市街地を元気づけたいという希望を持っているが、初年度はまず高校生たちがSDGsの意義を学ぶところから始めることとなった。

#### Summary

This research was conducted as part of art projects for the ART SETOUCHI. The aim of the ART SETOUCHI and Triennale is to reevaluate and revitalize the region and culture of the Seto Inland Sea. In this context, the research members have been working on the island area of Sakaide City, Kagawa Prefecture. This time, we expanded the project to the inner city of Sakaide and implemented two projects.

#### 1. Shinkin-Gu of ART

This exhibition was held at the former Sakaide branch of the Takamatsu Shinkin Bank in the shopping district of downtown Sakaide. The exhibition was jointly organized by the members of this research project and local artists from Sakaide and Takamatsu.

#### 2. SDGs Project

This is an educational program in collaboration with Kagawa Prefectural Sakaide Commercial High School. The aim is to revitalize the city with SDGs-oriented business activities. In the first year, we start by learning the significance of the SDGs.

### 1-1. 研究目的

本研究は2013年度から継続して行っている「瀬戸内国際芸術祭」におけるアートプロジェクトの一環として実施されたものである。芸術祭自体の大きな目標は「海の復権」と称し、瀬戸内海の地域・文化の再評価・再生を目指したものであるが、その中で本研究メンバーを含む本学は、香川県坂出市を対象に活動を行ってきた。今回のプロジェクトも地域コミュニティの活性化を目的に、地域のアーティストや高校生と取り組んだものである。

### 1-2. 研究概要

2020年度の研究(創作活動)では主として2つのプロジェクトを実行した。一つ目は「しんきんぐ of ART」と題した展覧会で2020年8月28日から9月6日の会期にて、坂出市街地サンロード商店街内の高松信用金庫旧坂出支店を会場に行われた。この展覧会の立案の経緯については2019年度共同研究報告書を参照されたいが、本研究メンバーと地元の坂出・高松のアーティストとの共同展示が特徴である。

もう一つのプロジェクトは、香川県立坂出商業高校と共同したSDGsプロジェクトである。これは将来的にはSDGsを意識した商活動で市街地を元気づけたいという希望を持っているが、初年度はまず高校生たちがSDGsの意義を学ぶところから始めることとなった。

#### 2-1. しんきんぐ of ART

これまで本研究メンバーは2013年、2016年、2019年に開催された瀬戸内国際芸術祭への参加を基軸に活動を行ってきたが、これらは「海の復権」というテーマからも坂出市の沙弥島、瀬居島という海に面した会場でのアートプロジェクトである。芸術祭の目的はまずは会場である島の人々を取り込んで活力を生み出すことであるが、次には周囲から訪れる人々にもアートの楽しさと意義を知ってもらうことである。そこで今回はよりアクセスのよい、坂出の中心市街地を会場に、より多くの地域の方々と共創してアートプロジェクトを行おうというのが主旨であった。

当初の計画では芸術祭の1年後、2020年春に開催する

予定であったが、コロナ禍により延期となり8月からの会期となった。開催の是非については坂出市や商店街とも慎重に検討し、感染予防に万全を努めた。作品展示と鑑賞方法、開場時間については一定の制限をせざるを得なかったが、8月28日にオープニングを迎えることができた。地元の四国新聞、KBS放送の取材報道もあり、コロナ禍ではあったが一定の集客を得て会期を終えることができた。あらためてご協力いただいた、高松信用金庫、サンロード商店街、コミュニティ施設みなとまちカフェ、ライオンズクラブの皆様感謝の意を表したい。



展覧会チラシ詳細

### 2-2. 会場構成

会場となった高松信用金庫旧坂出支店が立地するサンロード商店街は、坂出駅前を起点とするメイン・アーケードから分岐する商店街である。しかしながら全国共通の状況として、現在では駅前のイオンとロードサイドの大型店に集客が傾き、シャッターを下ろしている店舗が目立つ。高松信金の支店も幹線道路沿いに移転し、旧店舗は未利用のまま残されていた。1階店舗部分であったロビー、執務室は全ての什器が撤去された状態で、不要になったスチール棚が大量におかれた状態であった。その他1階には金庫、支店長室、その他通用口側に小事務室や守衛当直室がある。2階には集会や会議等に用いられたと思われるホールと、職員用休憩・当直室、ロッカー室がある。今回は既存

の照明を復旧した程度で、会場自体は整備していないが、銀行という空間の独自性や当直室の生活感の残余を手掛かりに、各作家は展示構成を行った。



サンロード商店街・市長を招いてのオープニング

### 2-3. 出典作家

今回、本研究メンバー以外に参加した坂出・高松のアーティストは次。津村ユキヲ（インスタレーション）、上野あづさ（絵画）、なみえ（イラストレーション）、古川守一（passing art）、田村久留美（インスタレーション）、倉石文雄（インスタレーション）、ルカ・ロマ（彫刻）、松尾真由美（写真・インスタレーション）。キャリアもバックグラウンドも多様な作家たちであるが、瀬戸内国際芸術祭の開催に反応してできたネットワークを基に参加が決まった作家である。坂出に芸術文化がより浸透してきた証左であろう。



地元作家による展示風景

### 2-4. 作品解説

以下に本研究メンバーの出典作品について、簡潔に紹介する。

▼ 戸矢崎満男雄 『二十の守り神』（執務室：インスタレーション）。

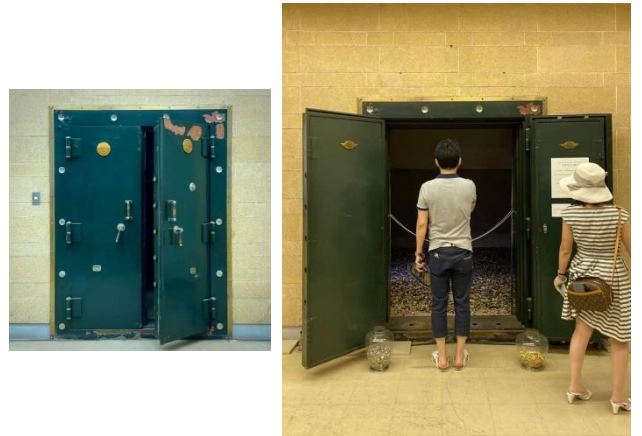
職員用であった靴入れの扉の中に、それぞれユニークな小オブジェが安置されているが、勝手に開けて見てはいけない。おみくじのように決められた番号の扉を開けて運気を

確かめる。



▼ 戸矢崎満雄 『あなたが投げたのは、金のボタン？銀のボタン？』（金庫室：インスタレーション）。

金庫内に置かれた容器を賽銭箱に見立て、金庫鉄扉前からコイン代わりに金銀ボタンを投げ入れる。



▼ 藤山哲朗+中山玲佳 『無作為のゲーム - アートは1日1時間？』（ロビー：インスタレーション）

放置されていたスチール棚を再配置して、藤山が迷路を構築。要所々々に中山が制作した怪しげなオブジェを設置。それらを見ながら迷路を征服する体験型インスタレーション。



▼ 尹 智博『0→1→?』(小事務室:インスタレーション)

暗室で明滅するストロボを利用したアニメーション効果で、「0」「1」とデジタルな数字のシルエットが刻々と変幻する。



▼ かわいひろゆき『ON THE ROAD 0200114』(2階ホール:インスタレーション)

大きく吊り下げられた白布の上を、ミシンで縫われた糸線が道のように連なる。よれながらも健気に歩む糸の運びは、詩人ケルアックの作品「オンザロード」のオマージュ。



3-1. SDGs プロジェクト

坂出市は大きな市ではないが、県立高校3校、私立高1校、国立大付属小学校も有する教育環境が充実している。その中で、我々のアートプロジェクト同様に市内商店街での教育プログラムに取り組んでいた坂出商業高校とつながりを持つことができた。坂出商業の特色ある教育プログラムとして「セキレ」という、生徒が社長以下従業員の役を担う模擬株式会社がある。今回はそのセキレのメンバーと共同してプロジェクトを発足することになった。

本研究メンバー側では、かわいがリーダーとなり高校側とテーマを検討する中で、SDGsを課題にすることになった。

社会的・地域的格差を背景としたフェアトレードの問題等、エシカル(倫理的)な経済活動の意義と、そこに価値を付加するデザイン・ブランディングを学ぶことが目的である。そして実際に市内にて、リサイクルやフェアトレード商品を扱う実店舗やイベントショップを開設することを目指すこととした。

3-2. SDGs 研究会

プロジェクトの立ち上げに際し、12月21日に研究会を開催。坂出商業高校からは学生8名、教員2名の参加があった。今回は、かわいによるSDGsの概説の後、実際にSDGs活動を行っている、「halqa-はるか」丸山輝裕氏、「エシカル・ペネロープ」原田さとみ氏を講師に招いて講義いただいた。丸山氏は高松を拠点に、フェアトレードコーヒーの普及に携わり、原田氏は名古屋を拠点に衣服などのファッションを扱っている。いずれも一般的な商品より高価格になるが、その価値がどこにあるのか、具体的に解説された。講義後には高校生はグループ毎にディスカッションとまとめを行ったが、真摯に取り組んでいた。



原田氏による講義風景

3-3. SDGs 活動計画

実はこの研究会に続き、2月にはバレンタインに合わせ、フェアトレードチョコ(カカオ)を広く坂出市民に知ってもらうイベントを企画していたのだが、残念ながらコロナ禍の状況悪化により中止となった。また2021年度に予定されていた、高校生対象のフェアトレードイベントにも参加できない状態となっている。